

## 早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 9月分 各業界からのコメント

### ◎建設業

- ・コロナ感染者は社内全国的に数名程度であるが散見が続く。集合イベントは引き続きリモートを中心としている。
- ・盆明け前後は特に大きな動きなし。民間の建設投資が徐々に再開し始めているが、仕入価格の高騰で事業主体もゼネコンも採算面を意識し慎重な交渉が続く。
- ・第7波による家庭内感染が社内と外注先でも蔓延し、業務の停滞や施工現場の遅延に繋がっている。
- ・原材料のほとんどが値上がりしてきている中で価格転嫁が進んでいないのが現状である。
- ・コロナ禍及びロシアのウクライナ侵攻による影響で資材の高騰、機械本体を含めた部品の入荷時期が極端に遅れている。この状況では今まで通りのサービスができず、顧客に迷惑をかけてしまい同時に信頼も失ってしまう。すでに影響を受けている。この状況を回避するため仕入れ先を限定せず、今後は専属の1社から数社に増やして対応しなければならない。

### ◎製造業

- ・豪雨の影響で山間部の現場への道路が通行不能となり、施工が来年以降に延期となりそうな物件がいくつかある。
- ・新型コロナウイルス感染者数は高止まりではあるが、規制緩和と経済政策により年末に向かって個人消費や人流も昨年よりは増えつつある。
- ・ニッケル等、材料価格は少し高止まりになってきた。弊社主力である酒造関係は補助金関係が増えてきている。半導体設備は来年度少し落ち着きそう。人手不足ではあるが、少しずつ若い人が入ってきている。

### ◎卸売業

- ・コロナ感染者は高止まり傾向であるが、秋の行楽シーズンに向け観光需要に期待できる。
- ・公共資材卸売りの為、繁忙期に入り商い活発。
- ・業況は好転しているが、円安傾向での値上げラッシュが消費マインドにどのように影響していくか心配である。
- ・仕入価格が上昇している。
- ・今年3度目の仕入価格の急激な上昇。
- ・賃金上昇があまり見込めない中、物価が上昇しているため、秋冬の商況は厳しい見通し。

### ◎小売業

- ・コロナ第7波の感染は思ったより波及しており、身近な人が感染している。
- ・市内でもイベントは活発化し、多くの人々が参加している。
- ・エネルギー価格の上昇は、ロシアの侵略戦争が落ち着くまでは高止まりが続くと思う。
- ・円安による原材料高騰は避けられないが、ここまで円安になったという事は、本気で日本国内で製造できるものを内製化し、雇用を作り出し国内流通を増やすことが景気回復に必要ではないかと思う。また、木材なども国内にあるため林業を活性化して、国内の建築に使っていくことも重要ではないか

と思う。

- ・食料も、有事の世界情勢を考えると受給率を上げていかなければ、食糧難でパニックになると思う。これも、物価価格を押し上げることになるが、携わる人たちの賃金を上げることも必要と考える。

## ◎サービス業

- ・6月～8月は売上が伸びず、9月に入り少しずつ売上也回復してきた。下半期は上半期の分を取り戻したい。
- ・今後も経済活動の自由な往来が補償されれば業績は好転する可能性がある。
- ・最新の注意で感染症対策も行っているものの、施設内クラスターが発生してしまった。瞬く間に多くの方が感染。BA5の感染威力が強すぎる事を実感。
- ・コロナ感染または自宅待機により若干稼働が落ちた。商談は多くなってきており人材不足の傾向にある。
- ・新型コロナウイルス感染第7波の影響は若干出ている。仕入価格の上昇、賃金の上昇が今後の収益に悪影響を及ぼしてくる。直近では県版GO TO EATが施行されれば一時の集客効果は出る。
- ・新型コロナウイルスが5類への引き下げられるような話が出ているが、依然感染者数は多い状況で、通常の勤務体系に戻せていないまま物価高騰も影響し、仕事がうまく回っていない。追加の経済政策が欲しい。
- ・9月1日より今年に入って2回目の原材料の値上げがあり、価格に転嫁せざるを得ない。
- ・建築設計業界は、コロナの影響は強く影響していないが、建築資材の高騰などで工事総額が大きくなり施主の予算確保に苦慮している。
- ・感染者が横ばい状態で改善が見られないため、営業収入は微増ではあるが物価が高騰していることから採算ベースには程遠い。再び、OPECが減産に踏み切るとのことから、産油国間での抗争が心配だ。
- ・8月は3年振りに行動制限のないお盆休みとなったこともあり、休み前に物量が増加したが、その後はまた元に戻った。原油高騰を始め今年に入ってから様々なものが値上げされており、影響が心配である。
- ・電気料金やガス料金の値上げによるコスト増が企業収益を圧迫している最中に9月・10月と2000種・4000種の値上げが決まり、更なるコストアップによる企業収益への悪影響が心配される。経費節減対策を推進し難局を乗り切りたい。
- ・コロナ第7波の影響がとて大きい。全員の努力で日中は忙しく仕事量も増加しているが、タクシー業で売上を確保できる22時以降(2割増し)に全く稼働が無い。また、燃料費の高騰で収益的にも大きなダメージとなっており、他業種のように価格に転換できない業種であり大変厳しい。ようやく9月に運賃の改定がされるが、お客様離れも考えられ、こちらもまた心配な問題。
- ・令和4年9月24日よりタクシー運賃がようやく10.6%の値上げ改定となる。労働条件の改善等が主な目的であるが、コロナの影響が大きく、値上げ分が労働条件の改善につながるかは疑問。
- ・コロナによる人員不足、売上への影響はそこまでないが、半導体不足や物価高によりじり貧状態である。また、10月から最賃引き上げ社会保険の適用拡大など採算悪化は免れない。